

まっちゃんぐ

街 ing いばらき NEWS

No. 249

2023年

11月号

(毎月25日発行)

長谷川誠子

10月例会 議事録

日時： 令和5年10月5日(木) 14:00~16:20

場所： 川本本店 茶論 [縁] (さろん「えん」)

出席者17名 川本 阪田 阪田 佐藤 杉田 杉山 鈴木 清野 中村 南野 長谷川

藤原 牧 吉田 外部より3名

- 1 外部より街づくりの経験者に来ていただき、茨木の現状と次の茨木について語っていただきました。
- 2 10月20日(金)に京都迎賓館を参観します。昼食は京都ガーデンパレス。ガイドツアー2,000円、昼食3,000円。参加者 河村 阪田 阪田 笹嶋 杉田 鈴木 中村 長谷川 藤原 牧 松岡 吉田 会員外5名 計17名
- 3 11月29日(水)石山寺周辺を散策。昼食は石山寺門前の湖舟。昼食は「しじみ釜めし」うなぎなど。昼食代1,800~2,800円。参加者 街ingで14名 川本 河村 阪田 笹嶋 杉田 鈴木 清野 中村 南野 長谷川 牧 松岡 吉田 吉田洋子 他部外者
- 4 12月15日(金)に河原町周辺を散策。昼食は北京料理の東華菜館。現存する日本最古のエレベーターが稼働しています。4~5ページに案内書を掲載しています。申し込み締め切り10月31日(火)
- 5 今後の例会実施日 11/2(木) 12/7(木) 1月なし
2月なし 3/7(木) 4月なし 5/9(木)

以上



高齢者川柳

AIに できないだろな 負けて勝つ

棚にある いつか使うは 使わない

年だから 言うたび一つ 年を取り

二択なら 長者と長寿 どっち取る

宅配の 「お荷物ですよ」が 気にかかる

筋肉は 裏切らないと 老いて知る

失言は 家庭内でも 命取り

こんな夢 まだ見れるなんて 黙っとこ

祖母という 財布になって 孫と会う

本当に 欲しい物って 何だろう

ハッピーな エンドの先の 物語

明日あると 歌った若い日 なつかしい

健康法 講師高齢 信用す

腰よりは 口につけたい 万歩計

気がつけば ポツンと一軒 のような俺

パワハラに 鍛えられてた ような昭和(ころ)

乃木坂と AKBは 違うのか

80を 過ぎたら年を 気にもせず

ブログより コンロ炎上 気をつける

川柳で 今日という日が 意味を持ち



「アマルフィ海岸」をえがいて

中村幸子

このたび、茨木市美術展に入選いたしましたので、街 i n g の皆様にも阪田様からご紹介いただき、誠にありがたく思っています。

イタリアのアマルフィ海岸は、世界的にも有名な美しい景色として名立るところです。

どういふことでここに旅行したかと申しますと、イタリアの北部は、取材されてテレビでも報道されていますが、イタリアの南部の様子は、あまり知らないということで、行くことしました。



イタリア半島の形状を長靴の形にたとえることが多いですが、長靴の底へ行こうということで、ローマからレンタカーでイタリア半島を南下し、道中観光地を訪れながら長靴の底を海岸沿いに、東から西に自動車で行き、ようやくアマルフィに着きました。教会や建物、街並み、海を渡る遊覧船や、モーターボートの白いしぶきは、明るい光の中で、美しいの一言です。その美しい観光地に訪れる人々を、アマルフィの景色とともに、描いてみようと思ってきました。



絵はもともと好きで、最近では、風景のみではなくそこに集う人々の、喜びや気持ちが描けたらいいなと思っています。まだまだ未熟ですが、楽しく描いていきたいです。

断崖絶壁に建つホテルや別荘に至る道路はせまく、1台の車が通るだけの道路幅で、柵やガードレールがまったくありません。もし、日本の白いガードレールが安全のため設置されていたら、逆に無料ではないかと思いました。安全重視の日本のことを考え、観光地ではあるけれど、辛うじて細い道路があるだけというアマルフィのありように、イタリア人の気質を感じました。

夫の巧みな運転には、いつも感謝しています。アマルフィから青の洞窟、カプリ島さらにそそり立つ断崖絶壁につけられた細い道路を走りソレント、ナポリへ向かいました。これからも絵を描いて行きたいと思っています。

中華の殿堂“東華菜館”から、高瀬川沿いに“五条樂園”へ！

2023年12月15日(金)

京都四条通には、鴨川を挟んで“東華菜館”と“菊水”とがその独特の意匠を競っている。ともに、京都における西洋料理の草分けとなる。“東華菜館”は戦前にビア・レストランとして開館したが、戦後は中華料理店に替わっている。今となっては、此処には西洋料理よりも中華料理がより似つかわしいといえそうだ。

四条大橋東詰め屋上の放物線カーブの塔が特徴的な“菊水”と対照的に、西詰めの“東華菜館”は、極めて濃厚な様式建築。些か専門的にみると、スパニッシュ風バロック様式ということになるが、見所はインテリアを含めたその濃厚でこってりした装飾にある。よくよく見ると、羊、ホタテ貝、巻貝、魚、蛸などのいろいろな魚介類が各所にちりばめられている。玄関廻りの装飾は、正しく圧巻！

また、蛇腹の内扉の付いた手動エレベーター（米国オーチス社 1924 年製）が、今も現役で稼働（日本最古）していて貴重な存在。「一見の価値あり！」



レリーフ・テラコッタの装飾が楽しい“東華菜館”

五条大橋から“五条樂園”を望む

名にし負う“東華菜館”で存分に食欲を満たした師走の午後は、高瀬川の流りに沿って、在りし日の 遊郭街“五条樂園”へ！ほろ酔い気分で、ぶらり散策と洒落込もうではないか？

水先案内人：牧 彰（会員）

知る人ぞ知る秘密の花園“五条樂園”

最盛期には 150 軒ものお茶屋があり、つい近年（2010 年）まで現役でした。昨今は個性的なレストラン（ex.レバノン料理「汽」）や、主に外国観光者向けの宿泊施設（ex.ホテル「丸福楼」）などに再生し、緑濃い高瀬川の水面に懐古的な雰囲気醸し出している。かつてのひっそりした歓楽街から、健全な町並みに替わりつつある。この辺りの描写は、官能女流作家・花房観音『樂園』に詳しい。

◇参集地：阪急「茨木市」駅改札口付近 10時45分（時間厳守）

◇順 路：「茨木市」10：57⇒11：23「京都河原町」～12：00 東華菜館 13：30～松原通（旧五条通）～五条楽園・市比賣神社～15：00 涉成園～文子天満宮～東本願寺（17：00 頃自由解散）～※京都タワー～JR「京都」駅⇒「茨木」駅 ※京都タワーはオプション

◇昼の宴：東華菜館 7,260 円（税・サ込 酒類は個人負担） 12時～13時30分

四条通に面した鴨川河畔の洋館（W・M・ヴォーリズ設計）で、本格的な北京料理を楽しめる。テラスのある階があり、鴨川のせせらぎを聴きながらの酒宴は、とても風情があります。

◇定 員：20 名

◇入園料：涉成園 500 円

◇参加費：無料

※会員には、会より 1,000 円の補助あり。

◇申込先：「街 ing いばらき」代表・阪田 浩（080 - 1436 - 9881）申込締切り 10 月 31 日（火）

Tel&Fax/072 - 627 - 3480 E-mail/ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。

五条楽園

出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

五条楽園(ごじょうらくえん)とは、京都市下京区河原町五条の南東にある旧遊廓、赤線である。五條楽園とも表記する。



五條楽園（旧・七条新地）

概要

お茶屋と呼ばれる店舗があり、旅館のような構造をしている。京都花街組合連合会に加盟する花街におけるお茶屋と異なり、一部では性風俗も扱っていた。このあたりには、平安時代末期頃より存在し、平景清も訪れたと伝わる。もともとは五条橋下(五条新地)、六条新地、七条新地という隣接する複数の遊廓であったが、これらが**大正時代**に合併し、長らく**七条新地**の名で親しまれた。かつてより芸妓と娼妓が混在する花街であり、戦後はいわゆる赤線となり、営業を続けていた。

1958年(昭和33年)の売春防止法施行後、五条楽園と名を変えた。当時はお茶屋84軒、置屋16軒、旅館15軒、バー・スタンド19軒で芸妓100人程度を擁していたという。

お茶屋へ入店し経営者に料金を支払うと純和風の畳の部屋に案内されて番茶を出された。経営者が検番(待機所)に連絡を取り、暫くすると着物姿で足袋を履いた女性が派遣されて来るシステムであった。料金はサービスする時間によって異なり、女性が着物を脱いだり着たりするのに必要な時間も料金内に含まれていた。畳の部屋には座布団が三枚程度置かれており布団は無かった。また古くからのしきたりで、女性は陰部に塗香を付けてから茶屋を訪れるのが慣わしであった。五条楽園は夕暮れになると、それぞれのお茶屋の玄関に赤い提灯が燈り、非常に情緒があった。現状は、五条楽園歌舞練場を中心に、一般民家に混ざってお茶屋15軒、置屋4軒が残っている程度である。大正から昭和初期に建築された、独特な唐破風屋根が映える京町家も現存する。

営業休止

2010年(平成22年)10月28日、11月18日の両日にわたり、京都府警によりお茶屋と置屋の統括責任者、経営者ら5人が売春防止法違反容疑で逮捕された。これを受け、10月28日よりお茶屋と置屋は一斉に休業している。11月17日には一帯の入り口に掲げられていた『五條楽園』の看板も撤去された。お茶屋関係者によると、今後の営業再開の見通しは立っていないという。また、一部はすでに廃業、建物も取り壊されている茶屋もある。2011年3月、解散。

地理

京都市下京区の、河原町通・五条通・正面通・鴨川の内側の一帯を指す。但し、実際の店舗はさらに内側の範囲(鴨川と高瀬川の間の中州地帯)に点在する。

最寄り駅

- 京阪本線 清水五条駅

《 女子教育の先駆者 》

笹嶋節子

すでに発表されていますが、日銀は新紙幣を 2024 年 7 月前半を目途に 20 年ぶりに発行します。紙幣の発行は 1885 年（明治 18 年）に第 1 号が誕生し、これまで 53 種類の紙幣が発行されてきたようです。そして、この度のデザイン刷新の中でも 5 千円札は今回も女性の図柄で樋口一葉から津田梅子に変わります。

「津田梅子」は新しい女子教育のスタイルをつくり、女性の自立を推進することに力を尽くした日本を代表する人物の一人で、彼女の功績は現在も高く評価されています。梅子は 1864 年に江戸幕臣の「津田仙」の次女として生まれました。仙は英語やオランダ語に通じており、梅子の誕生時には江戸幕府に通訳係として仕えていたそうです。梅子が 6 歳の時、幕府の開拓使から“アメリカに女子留学生を送ろう”という話が持ち上がり、そこに勤めていた仙が幼い梅子を行かせる事にしました。ほとんど英語を話せない状態で日本を出た梅子はワシントンのランマン夫妻の家ですくすくと成長し、小学校を終え女学校に進みフランス語、他言語、物理学、天文学などを熱心に学びました。しかしながら、日本とアメリカとの間で女性の地位に大きな差があることに衝撃を受け、24 歳の時に再びアメリカに渡りその留学中に女子教育の重要性を改めて感じ奨学金制度の設立の企画をしたり、後には「女子英学塾（現在の津田塾大学）」を創設しました。

亡くなる直前の最後の言葉は “Storm last night（昨夜 嵐）” と日記に記し、彼女は人生を「航海」にたとえて、荒波を何度も乗り越えながら苦難に立ち向かい夢をかなえた彼女の人生は、まさしく嵐のようだったのでしょ！

彼女がいなければ日本の女子教育の改革や女性の社会進出はもっと遅れていたかもしれません。・・・





「平均寿命を超えたら医療費補助を廃止」 杉田 宗三

9月13日にさいたま市の通所介護施設「ビッグスマイルリハビリセンター」の駐車場で、75歳のドライバーが運転する送迎車が施設玄関前のスロープに乗り上げ、施設利用者の無職男性(89)、無職女性(88)、施設職員の男性(43)を次々とはねた。送迎車の下敷きになった利用者2人は間もなく死亡、施設職員は軽症という事故があった。この事故について医療ジャーナリストの那須優子氏は、以下のように表題の提言をしている。対象年齢者や近い者に非常に重く辛い課題が突付けられた。どうする ○○は!?

事故が起きた施設ではドライバー職は常に募集している。雇用条件は「時給 1030 円から 1100 円」「高齢者の乗降補助や車椅子への乗せ込みなどの軽介助もある」とある。さいたま市のハローワーク紹介案件だ。

この施設の雇用条件は、平均的なもの。老人施設のドライバー職は通常、送迎の数時間分しか時給をもらえないから、60代以下の健康な男性はそんな求人には見向きもしない。おのずと求人応募者は、年金だけでは生活できない高齢者に限られる。

ハローワークの求人は嘘だらけ。車椅子に乗った老人を車に乗せるのは「軽介助」などではない。車椅子は最軽量のものでも 20 キロほどあり、電動車椅子は 40 キロ以上。そこに「寝たきり老人」が座るから、総重量は 100 キロを軽く超える。

エレベーターがない公営住宅やアパートに高齢者を迎えに行く場合は、高齢者をおぶり、車椅子を担いで階段を上り下りしなければならない。地獄絵図だ。



このままでは健康な高齢者が生活を維持できない。要介護の高齢者に過剰な延命治療を施すのは、世界広しといえど日本だけ。イギリスなどは「平均寿命を超えたら、国が医療や老人福祉を施す義務はない。老人が高度医療を受けたいなら全額自腹」「平均寿命を過ぎて治療費を払えないなら、寿命がきたということ」という徹底した医療費緊縮に舵を振り切っている。

そのイギリスよりも日本は平均寿命が長く、高齢化が進んでいる。イギリス並みに医療費を緊縮すれば、年金生活者の健康保険料、介護保険料の支払い負担が減っていくだろう。病んだ老人を延命させて、受け入れ先の介護施設は健康な老人に重労働を強いる悲喜劇。

日本では「子供を産むことも罰」だし「健康で歳をとることも罰」。

増税前に老人医療の全面廃止こそ、待ったなしだ。

(「アサ芸プラス」より)

次回のイベント

街歩き 10月20日(金) 京都迎賓館周辺 阪急茨木市駅 8時20分 集合

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日時： 令和5年11月2日(木) 14:00~16:00

場所： 川本本店 茶論「縁」 (サロン「えん」)

住所： 茨木市上泉町6-29 TEL：072-624-5552

- 内容：
1. 10/20(金)京都迎賓館周辺散策の振り返り
 2. 11/29(水)の石山寺
 3. 12/15(金)の河原町周辺散策 他

『街ingいばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間2,000円(一か月170円)



« 編集後記 »

- 10月、11月、12月とイベントを年内に3回計画しています。「建物見学プラス昼食をちょっと贅沢に」路線は継続していきます。ぜひご参加ください。
- 街ingの行事は任意・自由参加です。事故・傷害などについては、自己責任で対応ください。街ingでは事故に対して、一切の責任を負いません。

« 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2023年10月現在の訪問者は10,050 <前月比20の増加> となっています。

